



幾世橋小学校

双葉郡浪江町大字北幾世橋字植畑 11



「文教の地」としてたゆみなく 学問に精進する校風

幾世橋小学校は、1876（明治9）年、浪江小学校より分離して開校しました。幾世橋は「文教の地」と言われています。それは江戸から明治にかけて活躍した錦織晩香氏が現在の北幾世橋に「希賢舎」を開いたことから始まったとされています。晩香は文教の地のシンボルとして白檀を植え、これは校歌にも歌われました。

1956（昭和31）年には学校独自に「幾世橋の子」を出版しました。これは理科研究活動の成果をまとめたもので、平成になっても毎年のように様々な研究指定校・実践校となりました。まさに白檀のように風雨にもめげず、たゆみなく学問に精進する校風が引き継がれてきた小学校でした。

校歌

作詞／和田 甫 作曲／古閑 裕而

1. みどりの松に 明けそめる
光はてなき 太平洋
なぎさに珠と ぐだけては
うたう世紀の 朝の歌
幾世橋 幾世橋小学校
2. 紫かすむ 阿武隈は
山なみ遠く 呼びかける
ゆたかな夢を はばたかせ
明日の世界に 飛びたてど
幾世橋 幾世橋小学校
3. 白檀香る 丘の上
稲と蜂との 旗たかく
希望の風に ひるがえし
今日も学びの 道をゆく
幾世橋 幾世橋小学校

沿革

明治 5年	学制発布の際創立、浪江明倫館内に浪江小学校を開校（幾世橋、北幾世橋は学区）	昭和53年 3月	体育館落成
8年 5月	乙第七十学区幾世橋小学校開校（大聖寺一室を教場）	56年10月	「勤労体験学習」研究発表
8年11月	棚塩村請戸広業学校を分離して合併 北幾世橋字町後三畝に移転開校	61年 4月	体育館南側に白檀の木植樹（田中慶秋先生寄贈）
9年 1月	幾世橋小学校を北幾世橋字町後に開校 （浪江小学校より分離）	62年10月	体育館屋根全面大改修 県小教研算数部会会場校に指定
9年11月	棚塩小学校開校 （棚塩村請戸広業分業学校より分離）	平成 3年 4月	北幾世橋字植畑 11 に新校舎落成
12年 3月	幾世橋実業公民学校と改正	7年10月	県学校緑化推進研究校指定
20年 4月	学制改正により両校を浪江尋常小学校に合併	13年10月	敷地東側に新プール建設
23年 4月	幾世橋尋常小学校を北幾世橋字町後に建つ	15年10月	校庭改修工事完了（200mトラック完成）
26年 5月	北幾世橋字羽場に移転新築	16年 4月	県「基礎学力向上推進支援事業」研究校指定
41年 1月	幾世橋小学校内に幾世橋村立農業補習学校を併置	18年 4月	県「うつくしまハートフル推進事業」実践校指定
大正 8年 4月	高等科を併置し、幾世橋尋常高等小学校と改称	19年 4月	県「学力向上支援プロジェクト事業」対象校指定
15年 7月	幾世橋村立幾世橋青年訓練所創立、幾世橋尋常小学校に併置	21年 2月	二宮金次郎歌碑を建立（幾世橋地区より寄贈）
昭和10年 4月	青年学校令交付により廃止し、幾世橋村青年学校と改称	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
16年 4月	幾世橋村国民学校と改称	23年 7月	卒業証書授与式（卒業のつどい）：二本松御苑
22年 4月	学制改革により双葉郡幾世橋小学校と改称、高等科は廃止して中学校	24年 2月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉・安達ヶ原ふるさと村）
27年10月	幾世橋小学校児童文集「幾世橋の子」発行	24年 7月	幾世橋っ子のつどい（国立那須甲子青少年自然の家）
28年12月	幾世橋村、請戸村、浪江町の町村合併により浪江町立幾世橋小学校に改称	26年 1月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉・安達ヶ原ふるさと村）
31年 8月	幾世橋小学校理科実験の観察の記録「幾世橋の子」発行	26年 7月	学校での私物引き渡し①
32年 9月	北幾世橋字植畑 45 に移転 （8教室新築、平屋6旧教室移築）	26年 8月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉）
38年 6月	校歌制定 作詞／和田甫 作曲／古閑裕而	26年11月	学校での私物引き渡し②
39年 3月	校庭拡張	27年 8月	学校での私物引き渡し③
49年 3月	創立百周年記念式典、記念碑1、記念誌「白檀」	27年11月	幾世橋っ子のつどい（アーバンホテル二本松）
		31年 3月	休校
		令和 2年 7月	幾世橋小学校見学会を開催
		3年 3月	閉校

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

平成 30 年広報なみえ
12 月号より抜粋



被災経験を活かし、人の役に立ちたい

高木 七美さん（中学3年）

震災の時は小学1年生でした。避難先の二本松市・岳温泉では、友達とすぐに打ち解けて、浪江になかったスキーマの授業や登山も体験しました。地域のつながりがとても強く、みんな「七美、七美」と可愛がってくれました。この時の友達とは今も連絡を取り合っています。中学2年生の時に、福島民報社が募集した「ふくしま復興大使」に就任し、1年間務めました。県内各地を視察したり、県内外の大きなイベントに参加したりし、いい経験になりました。全国の人にお世話になったので、私もいろいろな地域の人役に立ちたいと思っています。今はいわき市に住んでいますが、浪江町も早く復興してほしいです。人が戻って、また前のように賑やかになることを願っています。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



きよはしっ子のみなさんへ（震災後）



鮭放流体験



旧校舎（1965年）



農業体験



震災前の校舎



運動会

震災直後の記録とその後

震災発生直後、児童らは校庭に避難し、人数確認やけが人の状況確認を進めました。風が強く、ブルーシートで児童を囲み、防寒に努めました。その頃、津波が南側の田んぼまで押し寄せていましたが、その様子を児童に直接見せないようにしました。地域住民を受け入れる準備を進め、その一方、児童をしばらく学校に待機させ、担任がそばに寄り添い見守りました。翌朝、防護服を着た警察官が突然訪れ、「10km圏外」に避難する指示を受けました。児童たちは素早く避難したため、全員無事でした。

その後原発事故に伴い、児童たちは県内外に避難。同年7月には「幾世橋っ子再開のつどい」が開かれ、卒業を祝う会も催されました。また幾世橋小学校の卒業生でもある針谷順子先生から「幾世橋小学校は教育の原点」という講話がありました。針谷先生が在学中の1952年に文集「幾世橋の子」が発行されました。これは全校児童の作品・文章・詩・俳句・観察記録が掲載され、児童たちの心を育てた素晴らしい冊子でした。震災後は、大変な中で新たに学校文集「幾世橋の子ら」が発行されました。それは、散り散りになった幾世橋の子たちを結ぶ一本の綱、そして宝物になることでしょう。



平成 22 年度卒業の集い（2011 年 7 月）



幾世橋の子



幾世橋の子ら



花壇整備



幾世橋っ子のつどい（野外活動）



幾世橋っ子のつどい（卒業証書の授与）



幾世橋っ子のつどい（2012年7月28日）